

平成 21 年 5 月 28 日現在

研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2007～2008
 課題番号：19530548
 研究課題名（和文）世代間交流に携わる高齢者の研修プログラムの開発—日・米・スウェーデンにおける調査を基に—
 研究課題名（英文）The Development of training programs of the older persons who are involved in the intergenerational exchanges on the basis of the investment in Japan, the United States and Sweden.
 研究代表者
 草野 篤子（KUSANO ATSUKO）
 白梅学園短期大学・福祉援助学科・教授
 研究者番号：00180034

研究成果の概要：

日本の高齢者による世代間交流活動の質的向上、継続、発展を目的として、世代間交流活動に携わる高齢者の研修プログラムの開発を意図し、日本、米国、スウェーデンで行われている先行実践の調査を行った。

1. 平成19年度にスウェーデンの中高年による幼稚園、小学校における中高年の失業対策と連動した有償ボランティアであるクラスダディ(Klassmorfar)・プログラムの実地調査を行いその目的、希望者の募集、研修プログラム、歴史的成り立ちなどを調べた。

2. 加えて、日本の先行実践：特定非営利活動法人日本世代間交流協会および白梅学園大学・短期大学共同主催のコーディネーター養成講座について、研修プログラムの内容、方法、期間等を検討し、講座参加者を対象とする調査票を作成し、世代間交流コーディネーター養成講座の受講生を対象に、コーディネーター養成プログラムへの参加の理由、きっかけ、現在の仕事とのつながり、希望する研修内容などについての調査を行ない、続いてインタビュー調査も行った。

3. さらに、米国の中高年による学校ボランティア・プログラムであるイクスピリエンス・コア(Experience Corps)プログラムの研修プログラムについて、文献調査の上で、米国ペンシルヴァニア州フィラデルフィア市のテンプル大学世代間交流学習センター、イクスピリエンス・コアのディレクターであるロバート・ティース(Robert Tiez)氏から数日にわたって詳細な講義および面接調査を行った。

以上の様な方法で、日本、米国、スウェーデンの3ヶ国における高齢者の世代間交流研修プログラムについて、比較考察を行った。その結果、行政、大学、研修プログラムを企画するNPO団体などの組織との三者関係が、それぞれの研修プログラムの実施方法、内容にも様々な影響をもたらしていることが明らかとなった。特に米国、スウェーデンの研修プログラムは、独自の世代間交流プログラムに付随した研修プログラムであるが、今回調査を行った日本の先行研修プログラムは、現在すでに多様な福祉施設で世代間交流を実践している者や、今後実践を希望する者が対象であって、米国、スウェーデンの例と、性格を異にしている。従って、日本での高齢者の世代間交流研修プログラムは、特定の世代間交流プログラムに付随した研修ではないので、多義な内容を研修する希望が出された。従って、出来れば世代間交流の研修プログラムは、将来的に見れば、4年生大学などのカリキュラムとして定着されることが望ましい内容のものを含んでいる。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
平成19年度	2,100,000	630,000	2,730,000
平成20年度	1,500,000	450,000	1,950,000
年度			
年度			
年度			
総計	3,600,000	1,080,000	4,680,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学・社会福祉学

キーワード：世代間交流、研修プログラム、高齢者、学校ヴォランティア、日本、米国、スウェーデン

1. 研究開始当初の背景

少子高齢社会では多世代が共存・協力してコミュニティを形成することが重要である。異世代間の日常的な交流は著しく減少し、意識的・意図的な配慮によって多様な人間関係を構築する機会を設定しなければならない事態となっている。近年、学校教育では「総合的な学習の時間」や学校ボランティアなどによって世代間交流活動が行われている。その大半はイベント的なもので、日常的な交流や「なじみの関係」への発展は困難である。

2. 研究の目的

本研究は日本の学校における世代間交流活動の質的向上を図るために、子どもを支援する高齢者の事前研修・スキルアッププログラムを作成することを目的としている。

3. 研究の方法

1年目は義務教育学校に高齢者を派遣する事業（Klassmorfar；クラスダディ）を実施しているスウェーデンのプログラムを対象として研究に取り組んだ。2007年8月、スウェーデンにおいてクラスダディ・プログラムを導入している学校の現地調査と子どもや教員、クラスダディおよび研修担当者、事務局メンバーへのインタビューを行った。

2年目は以下の方法で研究をすすめた。(1)日本の先行実践(①日本世代間交流協会のコーディネーター養成プログラム、②白梅学園大学・短期大学の世代間交流秋期講座)を対象にプログラムや講座の内容、方法及び期間等を整理した。(2)(1)の世代間交流コーディネーター養成講座の受講生を対象とした配票調査とインタビュー調査を行った。(3)米国のExperience Corpsプログラムのディレクターであるロバート・ティース氏より、高齢者の研修に関してレクチャーを受けるとともに、面接調査を行った。

4. 研究成果

(1)スウェーデン、ストックホルム市のナッカ地域でクラスダディ・プログラムは1996年に開始された事業で、現在は69の県における163の市町村で導入されており、566名が活動している。クラスダディとしての認定には2ヶ月間の研修があり、1ヶ月間の試用

期間を経て正式採用となる。研修の受講にもクラスダディ事務局による面談と選抜がある。研修は教育学や心理学、子どもの発達や問題行動、学校組織や教職員の役割、身体による意思表示などの内容で構成されており、グループ活動や実習も組み込まれている。クラスダディ・プログラムの効果として、子どもが精神的に安定し、教師の負担が減少するとともに、学校と保護者の連携強化が挙げられた。

(2)米国の学校ヴォランティア・プログラムの中でも、ペンシルヴァニア州フィラデルフィア市にあるテンブル大学世代間学習センターに本部を置くイクスピリエンス・コア・プログラムの事前学習は、20時間と決められている。その内容は(1)子どもの発達(Early Childhood Development)、(2)幼少期の読み書き能力(Early Childhood Literacy)、(3)学校の政策(School Policy)、(4)チーム作り(Team building)、(5)リーダーシップ(Leadership)、(6)指導法(Tutoring)、(7)指導戦略(Instructional Strategies)、(8)声に出して読む(Read Aloud Strategies)などを中心としたもので、すでにマニュアルが出来ている。これらの講座を受講し、学校でのヴォランティアにふさわしいと認められたシニア・ヴォランティアは、交通費とコーヒー代くらいを支給される有償ヴォランティアとして、決められた小学校に派遣される。そのヴォランティアにも4種類あり、リーダーシップ・ヴォランティア、学期単位ヴォランティア、補助ヴォランティア、学校行事ヴォランティアがある。イクスピリエンス・コアのプログラムを採用した小学校は、生徒の学力の向上、高齢者による生徒のメンタリング効果があったことをあげている。

(3)日本の先行実践のうち①日本世代間交流協会と白梅学園大学・短期大学の夏期コーディネーター養成プログラムは、全日2日間となっており、1日目は①世代間交流とは何か一世代を繋ぎ地域を再生するー②人間発達と世代間交流.③世代間交流と相互互惠性の育成ー幼老統合施設の実践からーといった内容となっており、2日目は、幼老統合施設に実際に行って実習を行っている。②白梅学園大学・短期大学の秋期世代間交流講座の内容は、5日間で約15時間と

なっており、理論面と実践面の両方から構成されている。世代間交流コーディネーター養成講座を受講した受講生は、プログラム実施の方法、プログラムの評価法、児童心理学、老年心理学など多義にわたった内容の研修プログラムを望んでいる。

従って、今回の日本での高齢者の世代間交流研修プログラムは、特定の世代間交流プログラムに付随した研修ではなかったため、多義な内容が必要とされ、出来れば将来的には、4年生大学などのカリキュラムとして定着されることが望ましいと考えられる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 10 件)

- ① Atsuko Kusano, Profile of the Japan Intergenerational Unity Association, *Journal of Intergenerational Relationships*, Vol.7, 104-110, (2008), 査読有
- ② Yoko Kakuma・Atsuko Kusano, Support for Intergenerational Programs in Schools: Results from a Survey of Educational Administration in Japan, *Journal of Intergenerational Relationships*, Vol.7, 84-88, (2008), 査読有
- ③ Yoshitaka Saito, Satoru Yajima, Atsuko Kusano, Matthew Kaplan, Introduction: Intergenerational Pursuits in Japan: A Mosaic of Practice and Inquiry, *Journal of Intergenerational Relationships*, Vol.7, 1-3, (2008), 査読有
- ④ Satoru Yajima, Matthew Kaplan, Masataka Kuraoka, Atsuko Kusano, Japan's First National Intergenerational Conference: The Story Behind the Planning, *Journal of Intergenerational Relationships*, Vol.7, 4-16, (2008), 査読有
- ⑤ Yoshitaka Saito, Satoru Yajima, Matthew Kaplan, Atsuko Kusano, Networking and Collaboration Outcomes at Japan's First National Intergenerational Conference, *Journal of Intergenerational Relationships*, Vol.7, 111-117, (2008), 査読有
- ⑥ 草野篤子, 第 1 章、世代間交流理論構築のための序説とその歴史、草野篤子・金田利子・間野百子・柿沼幸雄編, 世代間

交流効果—人間発達と共生社会づくりの視点から, 三学出版, 1-17 (2009)

- ⑦ 角間陽子・草野篤子, 中年・高齢者の学校における世代間交流—スウェーデンの場合—, *福島大学地域創造*, 第20巻第1号, 56-65, (2008), 査読無
- ⑧ 角間陽子・草野篤子, 第 12 章 スウェーデンの義務教育における世代間交流, 草野篤子・金田利子・間野百子・柿沼幸雄編, 世代間交流効果—人間発達と共生社会づくりの視点から, 三学出版, 153-166 (2009)
- ⑨ 石橋ふさ子・草野篤子, 第 13 章 ドイツにおける世代間交流, 草野篤子・金田利子・間野百子・柿沼幸雄編, 世代間交流効果—人間発達と共生社会づくりの視点から, 三学出版, 167-180 (2009)
- ⑩ 築山宗・黒澤祐介・草野篤子・角間陽子, 世代間交流の実態調査報告—京都市・神戸市のアンケート調査より—, *福祉社会研究*, 題 7 号, 123-129

[学会発表] (計 3 件)

- ① 草野篤子・角間陽子, 高齢者の学校における世代間交流—スウェーデンの場合—, 日本家政学会第60回大会, 2008年6月1日, 日本女子大学
- ② 主藤久枝・草野篤子・角間陽子・金田利子, デイサービスセンターにおける世代間交流の室—幼老統合ケアの質的検討から—, 日本家政学会題60回大会, 2008年6月1日, 日本女子大学
- ③ 角間陽子・菅原愛美・草野篤子, 複合施設における世代間交流の実態と課題, 日本家政学会題59回大会, 2007年5月

[図書] (計 3 件)

- ① 草野篤子・金田利子・間野百子・柿沼幸雄編, 世代間交流効果—人間発達と共生社会づくりの視点から, 三学出版, 234 (2009)
- ② 草野篤子編著, グローバル化時代を生きる世代間交流, 明石書店, 408, 2008
- ③ 草野篤子・金田利子・水野宗一編, 世代間交流—老いも若きも子どもも—, 第 9 号, 白梅学園大学「世代間交流広場」・特定非営利活動法人日本世代間交流協会, 299, 2009

[産業財産権]

○出願状況（計0件）

○取得状況（計0件）

〔その他〕

6. 研究組織

(1) 研究代表者

草野 篤子 (KUSANO ATSUKO)
白梅学園短期大学・福祉援助学科・教授
研究者番号：00180034

(2) 研究分担者

土田（角間） 陽子 (TSUCHIDA - KAKUMA
YOKO)
福島大学・人間発達文化学類・准教授
研究者番号：70342045

(3) 連携研究者